

抄 録

結核専門雑誌

American Review of Tuberculosis Vol. XXXIV No. 1 1937.

聴診法ノ變轉

James J. Waring: The Vicissitude of Auscultation

西部ヨーロッパ BCG 接種

G. Gregory Kayne: BCG Vaccination in Western Europe

チヤマイカノキングストンニ於ケル結核ノ蔓延

C. W. Wells and H. H. Smith: The Epidemiology of Tuberculosis in Kingston, Jamaica

ブリチッシュコロンビアノヴァンクーヴァーニ於ケル

小學校入學兒童ノ結核罹患

A. R. J. Boyd: The Incidence of Tuberculosis in Children Entering Primary Schools in Vancouver, British Columbia

此研究ハ第一ニ兒童結核罹患ノ根源究明ヲ目的トスル家族健康診断ノ實際價値ヲ明カニシ、第二ニ患者發見ノ一新方法トシテノ此検査ノ價値ヲ評價スル爲ニ行ハレタモノデアアル。

1) 小學校入學兒童ノ結核罹患ニ就テ  
 ヴァンクーヴァー市小學校 53 校ノ 1 年生ノ内検査ヲ行ヒ得タ者ハ 1143 名テ、先ヅ第 1 回マンツ一反應(1000 倍舊「ツベルクリン」0.1cc)陽性者ハ 61 名デアツタ。殘者ノ内 4 名ヲ除ク 1078 名ノ兒童ニ第 2 回マンツ一反應(100 倍舊「ツベルクリン」0.1cc)ヲ行ツタ所、166 名カ陽性デアツタ。全體ノ内 6 歳ノ兒童ハ 1001 名アリ、内第 1 回反應陽性者ハ 5.19%、第 2 回陽性者 16.24%、合計テハ 20.08%デアアル。第 1 回陽性者ノ比較ノ少數ナルハ注目ニ價スル。女兒ハ男兒ニ比シテ僅カバカリ陽性率が高い。之ヲ種族別並ニ性別ニ見ルト第 1 表ノ如クナル。

一方ヴァンクーヴァーニ於ケル東洋人ノ結核死亡率ハ日本人支那人共ニ白人ヨリ高イ。生活環境カ重大ナル原因ヲナスト思ハレド、マンツ一反應ノ強サニ就テ分ケテ見ルト東洋人ノ方ニ強陽性者ノ率が大キイ。

第 1 表

	男 兒			女 兒			計		
	例數	陽性	陽性率	例數	陽性	陽性率	例數	陽性	陽性率
白人	436	79	18.1	421	85	20.2	857	164	19.1
日本人	59	12	20.2	51	12	23.5	110	24	21.8
支那人	20	9	45.0	9	2	22.3	29	11	37.9
東印度人	2		150.0	1	1	100	3		266.6
ニグロ	1	0	0	1	0	0	2	0	0
計	518	101	19.5	483	100	20.7	1001	201	20.1

兒童ノ體重トマンツ一反應トノ間ニハ大體ニ於テ關係ヲ認メ得ナイ。

189 名ノマンツ一反應陽性者ニ就テ X 線寫眞検査ヲ布ヒ之ヲ種族別ニ分ケタノカ第 2 表デアアル。

東洋人ニ於テハ白人ニ於ケルヨリモ X 線寫眞像ニ變化陽性ナル者ノ割合カ大デアリ、殊ニ男兒ニ比シテ女兒ニ多イ事カ明カニ窺ハレド。

以上 6 歳ノ兒童 1001 名ノ内皮内反應陽性ニシテ而モ X 線寫眞ニ變化ヲ認ムル者ハ 2.49% トナル。之ヲ皮内反應「ツベルクリン」量ト X 線變化トノ關係ヨリ見ルニ、1000 倍「ツベルクリン」陽性者ハ 100 倍「ツベルクリン」陽性者ニ比シテ X 線變化ヲ認メタ者カ 11 倍モ多イ。又皮内反應ノ強サカラ言ヘバ強反應者種 X 線變化陽性率が高い。體重トノ關係カラ見ルト、體重過大及過少者ニ於テ X 線變化陽性率が大デアアル。最後ニ小學校ヲ人口密度ノ順ニ配列スルト精密ナ結核罹患率モ高く、X 線變化陽性率モ大デアアル。

2) 小學校入學兒童ノ結核感染ノ根源ニ就テ  
 マンツ一反應陽性兒童ノ家族ノ健康診断ヲ行ツテ感染源ヲ追求シタノデアアル。總計 72 家族ノ検査ヲ行ツタガ、其内全員ニ就テ行ヒ得タノハ 51 家族テ、検査ノ結果感染源ト思ハル、モノヲ見出シタノハ 21 家族ニ及ンダ。初發患者ト思ハレタ 21 例中 19 例ハ成人

第 2 表

	性	例 數	陰 性	疑 キ 者 ハ シ	陽 性	氣 管 腫 氣 管 枝 腺	肺 巴 腺 腫 淋	氣 管 腫 氣 管 枝 腺	巴 腺 腫 淋	實 質 性 浸 潤	疑 キ 者 ハ シ (百 分 率)	陽 性 者 (百 分 率)	左 合 兩 者 計 率 (百 分 率)
白 人	男	76	67	2	7	3	1	2	1	2.6	9.2	11.8	
	女	79	69	1	9	3	2	3	1	1.3	11.4	12.7	
日 本 人	男	12	10	0	2	0	0	1	1	0	16.6	16.6	
	女	11	8	0	3	2	1	0	0	0	27.3	27.3	
支 那 人	男	9	6	0	3	1	0	1	1	0	33.3	33.3	
	女	2	1	0	1	0	0	0	1	0	50.0	50.0	
計	男	97	83	2	12	4	1	4	3	2.1	12.4	14.4	
	女	92	78	1	13	5	3	3	2	1.1	14.1	15.2	
白人合計		155	136	3	16	6	3	5	2	1.9	10.3	12.3	
日本人合計		23	18	0	5	2	1	1	1	0	21.7	21.7	
支那人合計		11	7	0	4	1	0	1	2	0	36.4	36.4	
合計		189	161	3	25	9	4	7	5	1.6	13.2	14.8	

デアリ、2例ハ青年型病型ヲ示セル15歳ノ患者デア  
ツタ。此内既ニ結核ノ診斷ヲ受ケテ居タ者ハ13例、  
新シク此検査ヲ發見サレタ者ガ8例テ、結局111名ノ  
成人ノ内ニ7名、141名ノ小兒ノ内ニ1名ヲ發見シ得  
タ譯テアル。何レモ病變ハ輕微テ6例ハ活動性、2例  
ハ外見上治癒シテ居タ。是等ノ家族ノ小兒ハ總計141  
名(新入學兒童ヲ除ク)テ、其内16例ハX線的ニ胸部  
病變ヲ證明シ、2例ハ頸部淋巴腺炎ヲ認メ、其他ニモ3  
例ノ疑似症ガアツタ。而モ「ツベルクリン」反應ハ約  
66.97%ニ陽性テアル。此處ニ於テモ「ツベルクリン」  
感受性ノ強弱竝ニ病竈發見ノ頻度ト初發者發見率ト  
間ニ緊密ナ關係ガ見出シ、種族のニハ東洋人ノ方ガ  
白人ヨリモ初發者ヲ高率ニ發見サレテ居ル。トモア  
レ此検査方法ハ結核患者發見ノ一新方法トシテ推賞  
シ得ルト著者ハ考ヘテ居ル。(宇多野 内藤抄)

結核傳播ノ要因トシテノ接觸

Charles Schuman: Contact as a Factor in transmission of Tuberculosis

結核ニ於ケル接觸ノ潜在性根源

Burt R. Shurlyand D. S. Brachman: Latent Sources of Contact in Tuberculosis

結核管制ノ效果

M. Pollak: The Efficacy of Tuberculosis Control

石綿肺ト肺癌

Dan S. Egbert and Arthur J. Geiger: Pulmonary Asbestos and Carcinoma

「サノクリジン」注射ニ續發セル「アグラヌロチトーゼ」性口峽炎

S. Schwartz and F. H. Heise: Agranulocytic Angina Following Sanocrysin

23歳ノ婦人、相當進行セル開放性肺結核患者テ「サノ  
クリジン」療法ヲ行フ事約2ヶ月ニシテ「アグラヌロチ  
トーゼ」性口峽炎ヲ併發シ死亡セル1例報告テアル。  
文獻ニ依ルト婦人ニ起ル事多ク、金鹽療法ヲ受ケタ者  
1000例ニ1例ノ割合ニ見ラレル。使用量ニハ關係ガ  
無イラシク、夾雜不純物ニヨルトモ考ヘラレナイ。豫  
後ハ一般ニ不良トサレテ居ル。(宇多野 内藤抄)

結核ニ對スル「サノクリジン」治療成績

Frank I. Terrill: Results of the Sanocrysin Treatment of Tuberculosis

「サノクリジン」ハ少量ヲ用フレバ相當有效テアル。著  
者ノ經驗テハ相當或ハソレ以上ニ進行セル結核患者  
41例ノ内18例ハ臨牀のニ良経過ヲトリ、10例ハ著シ  
ク好變、10例ハ不變、3例ハ惡化シタ。空洞(壁薄ク  
シテ直徑4cm以下ノモノ)ノ消失セル者ガ10例、3  
ヶ月以内ニ喀痰中結核菌ノ消失セル者ガ10例アル。  
著者ハ10mgヨリ始メテ漸次250mg迄増量、其ノ儘  
5—8回續ケタ後500mgニ増シテ2—3回續ケル。全  
量3—5gニ止メル。間隔ハ1週間。最後ニ著者ハ金  
療法ヲ以テ人工氣胸ニ代ヘ治療ノ好期ヲ逸スルノ愚  
ヲ戒メテ居ル。(宇多野 内藤抄)

人工氣胸療法ニ偶發セル氣腹

C. E. Hamilton and Peter Amazon: Accidental Pneumoperitoneum in Artificial pneumothorax Therapy  
掲題2例ノ報告テアル。氣胸針ガ横隔膜下ニ入ルト、  
陰壓ヲ示シ、而モ吸氣時ニ其度ヲ増スカラ全ク肋膜腔

内ト變ラナイ。後ニX線検査ヲ試ミテ始メテ其誤ニ氣付クヲ常トスル。氣腹ハ腸結核及ビ結核性腹膜炎ニ應用サレツ、アリ、又近時横隔膜神經切除ト併用サレテ居ル。著者ノ偶發例ノX線寫眞像ヨリ見レバ後者ノ效果ハ疑ハシイ。(宇多野 内藤抄)

#### 肺結核患者ノ赤血球沈降反應所見

H. A. Patterson: Observations on the Red-Cell Sedimentation Test in Pulmonary Tuberculosis

ニユウメキシコノ海員病院ニ於ケル312例ノ肺結核患者ノ1698回ノ赤沈検査ノ報告デアアル。患者ハ總テ海員ヲ、検査方法ハカウトラー氏法ニ依ツタ。正常沈降係數ハ1—7mm. 平均3.5mmデアアル。本病院ハ海

抜6231呎ニアルガ、低地ノ病院ニ於ケルヨリモ沈降速度ハ一般ニ遲イ。病竈ノ擴ガリト沈降速度トノ間ニハ密接ノ關係ガアルガ、總テノ症例ニ於テ比例的關係ガアル譯デハナイ。(宇多野 内藤抄)

#### 肺結核患者ノ血液水素「イオン」濃度

E. Robert Wiese: Hydrogen Ion Concentration of the Blood in Pulmonary Tuberculosis

實驗方法ハカレン氏法ノマイエル氏變法ニ依ル。45名ノ患者ノ内9例ノミカ略ク正常値ヲ示シタガ、他ノ著者モ著シイ變化ハ認メラズ、血液水素「イオン」濃度ハ結核ノ診斷ニモ豫後決定ニモ價値ヲ持タナイト言フノガ結論デアアル。(宇多野 内藤抄)

## American Review of Tuberculosis Vol. XXXIV No. 2 1937

#### 肺結核ト糖尿病

J. J. Wiener and Julius Kavee: Pulmonary Tuberculosis and Diabetes mellitus

之ハモンテフィオール病院テ1932年來迄過去10年間ノ患者中結核ト糖尿病トガ併發セル者218例ニ就テノ統計的觀察デアアル。患者ノ平均年齢ハ54.3年テ、糖尿病ノミノ場合ト大差ガ無イ。性別ヲ見ルト女ハ男ノ1倍半トナル。大多數ニ於テ糖尿病ノ方ガ先行シテ居リ、反對ニ活動性結核患者ニ糖尿病ヲ續發セル場合ハ9例シカ無イ。糖尿病患者ノ結核發現ハ屢ク假面的潛行的テ診斷困難ナル事ガ多ク、而モ同年齡ノ單純結核ニ比シテ豫後不良テ、20.8%ハ1年以内ニ、47.2%ハ2年以内ニ死亡シ、17%ノミカ停止型トナツテ退院シテ居ル。但糖尿病ノ性質ハ結核ノ運命ニ對シテ一定ノ關係ヲ持タナイ様デアアル。死因ノ内咯血死ノ率ガ單純結核ヨリ大デアリ、合併症トシテハ喉頭腸及泌尿器結核ハ差無ク、唯自然氣胸發生率ガ大キイ様デアアル。循環器系統ノ變化ハ寧ロ少ナイ。「ケトーシス」昏睡等ノ重篤症狀ガ結核合併ノ發現或ハ停止性結核ノ激變ノ一徵候デアアル事ガ屢クアル。

患者ノ基礎食餌トシテハ150gノ糖質、75gノ蛋白質及100gノ脂質ヲ用ヒ、之ニ配スルニ「インシュリン」(40單位迄)ヲ以テシタガ、之テ充分體重増加ヲ認メタ。「インシュリン」ノ注射ハ肺結核ノ發展或ハ再發ニ對シテ何等ノ原因ノ關係ヲ有シナイガ、一方結核糖尿病併發患者ノ滲出性病竈ヲ良性ナルモノニ變化セシメル能力モ持タナイ。

218例ノ内72.9%ハ既ニ死亡シ、26例ハ經過不明、33例(15.1%)ハ尙生存シテ居ルガ、内9例ハ輕微ナ結締織性結核テ、24例ハ活動性結核デアツタ。後者ノ内12例ハ重症結核、5例ハ人工氣胸ヲ施行スル事ナク停止型トナリ、7例ハ人工氣胸療法ニ依ツテ經過良好デアアル。即糖尿病患者ノ結核ニ對シテハ食餌モ「インシュリン」モ特ニ偉效アリトハ言ヒ難ク、ヤハリ人工氣胸ガ成功シタ場合ノミカ活動性變化ヲ停止スルニ役立つ考ヘラレル。(宇多野 内藤抄)

#### 糖尿病ト結核

Gordon B. Myers and Richard M. McKean: Diabetes and Tuberculosis

先ニ著者等ハ本誌上ニ於テ、デトロイトノヘルマンキーンフル病院テ觀察シタ糖尿病結核併發患者80名ニ就テノ統計的觀察ヲ發表シテ居ルガ、此處ニハ其内5例ニ就テ詳細ナ臨牀經過ヲ紹介シテ居ル。内5例ハ相當進行セル肺病竈ヲ臥牀安靜ト注意深キ糖尿病療法トノミニヨリ、補足的ニ人工氣胸及横隔膜神經切除ヲ併用シテ外見ノ停止ニマテ導イタ例デアアル。2例ハ此療法ノ無效デアツタ者テ其中ノ1例ハ胸廓整形術ニヨリ肺病變ヲ外見上停止セシメ得タ者デアアル。殘ル1例ハ外見上停止型ノ肺結核ガ糖尿病ヲ捨テ、置イタ爲ニ再發シタ例デアアル。(宇多野 内藤抄)

#### 「インシュリン」ト結核

Frederick M. Allen: Insulin and Tuberculosis

著者ハ結核ニ對スル「インシュリン」ノ應用ヲ唱ヘタ最初ノ人デアアルガ、其後ノ斯方面ニ於ケル文獻ヲ集メテ

此處ニ紹介シテ居ルノテアル。

#### A: 一般新陳代謝的考察

多クノ研究ニ於テ結核患者ノ空腹時血糖ハ大體正常テアルト認メラレテ居ルガ、糖質負荷試験ニヨリ糖質同化機能ノ低下ガ一般ニ、少クとも重症者ニハ證明サレテ居ル。之ハ肝臟ノ機能障礙ニ歸セラレテ居ル様テアルガ、著者之ニ贊セズ、未解決トシテ居ル。

次ニ糖尿病ニ結核ガ合併シ易イ事ハ周知ノ事テアル。カ、ル場合糖尿ニ對シテ良影響ヲ及ボスカ如ク見エル事ヲ報告セル者モ多イガ、重症ナラバ結局豫後ハ悪ク、結核ヲ死亡スル。食餌ハ或程度迄制限シタ方ガ良ク、「インシュリン」ノ使用ハ害ガ無イバカリテナク、食餌ヲ自由ニシテ豫後ヲ好變セシメル。

非糖尿病者ノ「インシュリン」長期投與ノ結果ニ就テノ文獻ヲ按ズルニ、主トシテ低血糖ノ危険ニ關シテ居ル。大體普通ニ糖質ヲ供給シテ居レバ低血糖ヲ惹起シナイト言フ者、「インシュリン」長期投與ハ脾臟ノ機能ヲ高メルトスル者、之ニ反シ却ツテ低下スルトスル者ガアル。

#### B: 非糖尿病者ノ「インシュリン」療法

第一ニ「インシュリン」單獨ハ「インシュリン」葡萄糖併用ノ肥胖療法ニ關スルモノガ數多ク、何レモ其效果ヲ認メテ居ル。其他ノ適應症トシテハバセドウ氏病、妊娠、心臟及肝臟疾患、胃十二指腸潰瘍、濕疹、皮膚硬化症其他ノ皮膚疾患テアル。

結核症ニ對スル「インシュリン」ノ效果ニ就テハ夥シイ業績ガアル。大體停止性患者ノ體重増加ニ役立つ事ハ一般ニ認メラレテ居ルガ、局所或ハ一般症狀ノ惡化、發熱、咯血ヲ來ス危險ヲ説ク者ガ相當ニアル。之

ハ「インシュリン」製劑ノ不純物ニ因ルト考ヘラレル。又「インシュリン」作用ガ使用停止後續カスト言フ非難ハ無意味テアルト著者ハ言フ。(宇多野 内藤抄)

#### 結核治療藥トシテノ「インシュリン」

Frederick M. Allen, Stephen A. Douglass, Earl L. Warren and Wm E. Pottinger: Insulin in the Treatment of Tuberculosis

結核ノ各種病型竝ニ病期ヲ代表スル 128 名ノ患者ニ就テ葡萄糖負荷試験ヲ行ツタ結果、40%ニ同化機能障礙ヲ認メタ。之ハ患者ノ年齢、性、病型、病態ノ擴カ人工氣胸、血液像、赤沈、合併症、食餌、營養狀態、運動、精神狀態竝ニ豫後ノ何レトモ關係ヲ認メ得ナイ。著者等ノ經驗ニヨレバ「インシュリン」ハ結核患者ノ食慾ヲ高メ、體重ヲ増シ、其間惡影響ヲ來セル事ハ極メテ稀テアルカラ、適當ニ患者ヲ選擇スレバ效果的ノ療法ノ一ツテアルト言フ。(宇多野 内藤抄)

#### 結核ニ對スル「インシュリン」ノ效果

M. A. Spellberg and S. H. Rosenblum: The Use of Insulin in Tuberculosis

重症肺結核患者ニシテ食慾不振、體重減少、或ハ其他ノ胃症狀ヲ訴ヘル者 13 名ニ就テ行ツタ「インシュリン」ノ治療成績テアル。使用量ハ 1 日 15--30 單位。總テニ於テ食慾ハ増進シ、胃症狀ハ好轉シタ。體重増加ヲ來サナカッタ者ハ總テ觀察期間内ニ死亡シ、數名ハ「インシュリン」中止後モ體重ヲ増シタ。局所的原因カラ食餌ヲトリ得ナイ患者ヲ除イテハ禁忌ト思ハレル場合ハ無カッタ。作用機轉ニ就テハ胃ノ運動及分泌ヲ高メ、肝臟及皮下脂肪組織ノ「グリコゲン」貯藏ヲ増進スルニアルト著者ハ考ヘテ居ル。(宇多野 内藤抄)

## The American Review of Tuberculosis Vol. XXXIV No. 3. 1937

### 結核ノ發展

James Alexander Miller: The Evolution of Pulmonary Tuberculosis

#### 結核ノ初感染型

J. Arthur Myers: The First-Infection Type of Tuberculosis

近年ニ至ツテ動物體內ノ結核發生ニ就テ周到ナル組織學的研究ガ行ハレタ。即フオルワルドガ實驗シ、次イテクラウゼガ追試シタ所ニヨルト、結核菌ノ侵入ニ對シテハ最初多核白血球ガ集合シテ之ヲ貪食シ、繼イテ單核細胞ガ現レテ後者ヲ貪食シテ類上皮細胞ト

ナルノテアル。斯クノ如ク過敏症發現前ニ菌ヲ限局セシメ、之ヲ取圍ム事ガ初感染結核ヲ良性ナラシメル重大ナル要素テアル。

次ニ諸家ニ依ツテ初感染ト再感染トノ病變發現ノ時期及程度ヲ比較シテ後者ノ方ガヨリ惡性テアル事ガ明ニサレタ。極メテ興味深イ實驗ガ組織培養ニ對スル「ツベルクリン」ノ作用ニ就テ行ハレテ居ル。即白血球ヲ培養シテ「ツベルクリン」ヲ接觸セシメルト、未ダ結核菌ニ侵サレタ事ノナイ動物ノ白血球ハ變化無ク、既ニ侵サレタ事ノアル動物ノ白血球ハ損傷サレルノテアル。又ザイベルトノ實驗テハ分子ノ大キナ結

核菌體蛋白ヲ 1 週間連續注入セル正常海狸ハ續イテ施行セル結核感染ニ對シテ却ツテ抵抗ハ弱マツテ居ル。レモン及モントゴメリニモ亦組織ノ過敏症ガ結核ノ破潰性進展ニ對シテ重大ナル役目ヲ演ジテ居ルト結論シタ。組織過敏症發現前ノ人體ニ對スル結核菌ノ作用ト言フ問題ヲ明ニスル機會ハ極メテ稀デアアル。唯リンガーハ生後 7 ヶ月ノ小兒ニ於テ先ヅ胃内容ニ結核菌ヲ證明シ、12 日ノ後「ツベルクリン」陽性トナリ。後 8 日ニシテ右肺ニ初メテ浸潤ヲ X 線ニ證明シタ。例ヲ報告シテ居ル。Wallgren モ亦「ツベルクリン」陰性ナル間ハ發熱其他ノ症狀發現ガ缺ケテ居ル事ヲ認メテ居ル。其處テ初感染結核ノ治療ト言フ點ヨリ見テ、「ツベルクリン」陽性化以前ニ如何ニシテ診斷スルカト言フ問題ガ起ルガ、此處ニ三ツノ可能性ガアル。即チ白血球像、赤沈及ビ消化管内容物竝ニ排泄物中ノ結核菌發見デアアル。但末梢血管内ノ白血球像ニ著明ナ變化ヲ起ス程初感染結核菌ガ多數ニ入ルカドウカハ不明デアリ、此問題ハ著者ノ下テ目下研究中デアアル。又赤沈モ非特異性反應デアアル以上「ツベルクリン」陰性ノ間ニ試驗スル事ハ實際的ニハ意味ガ無イ。

元來結核菌ニ對スル生物ノ抵抗力ハ一定テ無イカラ、一種ノ動物ノ實驗結果ヲ直ニ人間ニアテハメテ良イトハ限ラナイガ、病理學者ノ充分ナ觀察ハ我々ヲシテ、上述ノ早期ノ反應ガ人間ニモ動物ト同様ニ起ルト言フ事ヲ信セシメル。サテクラウゼニ依レバ多核白血球ニヨル防禦ノ期間ハ極メテ短ク、續イテ是等ヲ貪食セル單核細胞ニ依ル防禦期ニ移行スル。此際結核菌磷脂質ガ單核細胞ノ類上皮細胞化ニ或役目ヲ演ズル事、死菌竝ニ生菌カラ或物質ガ出テ、其内ノ蠟質ガ結締新生細胞ノ増殖ヲ、「アセトン」可溶性脂質ガ結締組織細胞ノ増殖ヲ促ス事ガ明ニサレテ居ル。一方結核菌蛋白ハ先ヅ局所ノ、次テ體組織ノ過敏症ヲ惹起セシメル。人體テハ皮膚反應陽性トナルニ 3—7 週間ヲ要スルト考ヘラレル。

局所淋巴腺ニ侵入シタ菌ニ因ル變化モ上ト同様テ、先ヅ非特異性炎症トシテ速ニ包圍ヲ受ケ、組織ノ過敏症ヲ惹起シテ後崩壞ガ始ル。

以上ノ事ハ人體初感染結核ノ經過良好ナル事ノ説明ノ一部ヲナスト信ズル。

著者ノ經驗ニヨルモ初感染結核ニ於テ組織ノ過敏症發生以前ニハ症狀ヲ發シタ者ヲ知ラズ。又後ニ再感染結核例ヘバ滲出性肋膜炎、腹膜炎、崩壞性肺疾患ヲ來

シタ者ヲ除イテ引續イテ症狀ヲ惹起シタ者ヲ見タ事ガ無イ。

サテ組織ガ感作サレルト直ニ或者ニ於テハ X 線的ニ肺炎ヲ證明スル。此者ノ本態ニ就テハ諸説ガ存在スル。第一ニ之ハ皮膚反應ニ於ケルガ如キ結核菌體蛋白質ニ對スル反應ト言フ考ガアル。第二ノ考トシテスウィーニーハ之ヲ數或毒力ニ於テ減弱サレタ結核菌ニヨルトシテ居ル。第三ニウォールグレンナドハ此者ハ充血、肺胞細胞、淋巴細胞浸潤、浮腫ヲ主ナ變化トスルガ、所々壞死竈及巨大細胞ヲ見ルト言ツテ居ル。スペンスヤゴルト及リグナックハ此病竈カラ穿刺ニヨリ結核菌ヲ證明シテ居ル。此病竈ハ數ヶ月カラ 1 年以上續イテ後徐々ニ消滅シ、X 線的ニ痕跡ヲ止メヌ事モアリ、中心ガ殘ツテ石灰化骨化スル事モアル。以前ハ一般ニ石灰ヲ沈著ハ長期ヲ經過シタ證據ト考ヘラレテ居タガ、スウィーニーハ乾酪化後暫クニシテ石灰化ガ起ル事ヲ見出シタ。パーゲル、ヒューブッシュマン及ヤツフェハ組織過敏症ハ乾酪性物質ノ軟化ノ一要素ナリト考ヘ、ロングハ必ズシモサウトハ限ラナイ點ヲ指摘シタ。スウィーニーハ初感染竈ノ石灰化ニ就テ特異性ヲ認メ、プール及シモンモ亦初感染型ト再感染型トノ石灰化ニ差ヲ認メテ居ル。スウィーニーハ又カ、ル石灰化竈ガ血行性ニ擴ガツテ見ラレル事モアルト言ツテ居ル。

種族ノ差異ヲ見ルニ白人デモ「ニグロ」デモ「インヂアン」デモ初感染竈ノ X 線像ニハ差ガ無イガ、再感染型ニ於テハ白人以外ノ者ハ崩壞ガ著シイ事ヲ認メル。但シ之ハ種族ノ感受性ノ差或ハ免疫力ノ違ヒヨリハ寧ろ感染菌量ノ差異ニ因ルノカモ知レナイ。又年齡ノ差ヲ見ルニ著者ノ經驗テハ小兒デモ成人デモ初感染ノ經過ハ變ラナイ。

一方感染セル者ニ必ズ過敏症ガ存在スルカト言フト、サウモ言ヘナイ場合ガアル。例ヘバ療養所ニ數年以上モ勤務シテ居ル看護婦テ「ツベルクリン」陰性ナル者ガアリ、X 線的ニ石灰化竈ヲ證明セル者ニシテ「ツベルクリン」陰性ナル者ガアル。又現在 X 線的ニモ亦喀痰検査のニモ結核ナルヲ證明シ得テ而モ「ツベルクリン」陰性ナル者モアル。然シ是等ノ場合ハ何レモ「ツベルクリン」反應モ以前カラ經過ヲ追ツテ見テ居ナイカラ前ノ事ハ不明デアリ、又「ツベルクリン」反應ト言フモノハ弱ク過敏症ヲ見逃ス事ハアリ得ルカラ是等ノ事實ハ矛盾トハ思ハレナイ。

以上述べた如く、過敏症が疾患後ニ悪影響ヲ及ボス者テアル事ニ就テハ多クノ人々ノ意見ガ一致シテ居ル。以前ニハ初感染結核ハ悪性ダトシテ恐レテ居タガ、之ハ醫師ガ脳膜炎、粟粒結核、結核性肺炎ヲ初感染結核ト考ヘテ居タガ爲デアツテ、近代ノ見解カラ言ヘバ之ハ再感染ト見ルベキ者テアル。又生後1年以内ノ乳兒ノ結核死亡率ハ以前ハ非常ニ高ク、初感染結核ノ重篤ナ事ノ證據ノ一ニナツテ居タガ、如上ノ誤解ヲ別ニ考ヘテモ近年非常ニ低クナツテ居ル。著者ノ經驗ニヨルモ初感染型結核ハ治療ノ有無ニ拘ラズ豫後ハ良好テアル、若シ粟粒瘧ヲ兩側肺野ニ現ストモ過敏症發現前ナラバ豫後ハ良イ。近頃マテ我々ハ學生ニ對シテ小兒ノ頸部淋巴腺結核ハ後年ノ肺結核ニ對スル一ツノ保證ダト教ヘテ居タガ、之ハ全ク誤デアツタ。我々ハ開放性患者ニ接シタ家族ノ中ニ臨牀的ニ認メラレル結核ノ多イ事ヲ知ツテ居ル。看護婦ヤ見習ニ多イ事ヲ知ツテ居ル。故ニ人間ハ一生ヲ通ジテ結核菌ノ侵入ヲ防止シナケレバナラナイ。(宇多野 内藤抄)

#### 妊娠ト結核

Charles R. Castlen: Pregnancy and Tuberculosis

#### 腸結核ノ罹患

Benjamin L. Brock and Gilbert O. Perry: The Incidence of Intestinal Tuberculosis

#### 結核菌ノ發育環ニ於ケル非抗酸性桿菌及顆粒ノ役目

M. C. Kahn and J. F. Nonidez: The Role of Non-Acid-fast Rods and Granules in the Developmental Cycle of the Tubercle Bacillus

結核菌ノ繁殖ニ關シテ現在三ツノ説ガアル。一ハ簡單ナル分裂ニシテ染色性ニ變化無シト言フ説、二ハモット複雑ナモノテ顆粒ヤ非抗酸性體が存在スルト言フ説、三ハ濾過性體ノ存在ヲ認メル説テアル。著者ノ此研究ハ第二ノ説ヲ確證セントスルモノテアル。

著者ノ1人ハ先ニ結核菌ノ單細胞標本ニ於テ微細ナル非抗酸性顆粒及桿菌ガ抗酸性菌ノ前身テアル事ヲ證明シタガ、此處テハ新シイ若イ聚落ノ垂直剖面ニ於テ之ヲ呈示シタノテアル。方法ハ氷結法、「パラフィン」法、「セロイヂン・パラフィン」併用法ヲ採用シタ。若イ聚落剖面ハ層ヲ成シテ居ル。外層ヲ微細ナル非抗酸性顆粒及桿菌ガ占メ、内層ハ大キキ抗酸性菌ガ大部分ヲナシテ居ル。外層ハ酸素ヲ最も豊富ニ供給サ

レテ居リ盛ニ發育シツ、アル部分ト考ヘラレルカラ、此部ニ上述ノ變形菌體ノアル事ハ之ガ結核菌繁殖ノ一時期ナルヲ證明スルモノテアルト著者ハ主張スル。之ガ使用藥品ニヨル變化テナイ事ハ參考實驗ヲ確メラレテ居リ、古イ聚落ニカ、ル層が見エナイ事ハ著者ノ主張ヲ裏書スル。

次ニ先ニ著者ガ非抗酸性顆粒ヲ見出シテカラ或人ハ之ヲ以テ濾過性ヲ持ツモノテハ無イカト想像シテ居ルノテ、著者ハ本研究ニシテ之ヲ究明セントシタ。即ロングノ合成液體培養基ニ1—4週間培養セル人型菌H37牛型菌B1ノ發育膜ノ部分ヲトリ、之ヲ各種ノ濾過器ヲ通シ培養皿ニ動物實驗ヲ行ツタ結果、0.1「ミクロン」以下ノ細孔ヲ通過セル者ハ無菌ナル事ヲ確證シ得タノテアル。(宇多野 内藤抄)

#### 皮膚結核ノ温熱療法

E. M. Rusten, G. R. Duncan, E. S. Mariette and D. D. Turnacli: The Treatment of Tuberculosis of the Skin by Heat.

6例ノ皮膚結核患者ニ局所ノ赤外線燈温熱療法ヲ試ミ、内1例ニハ全身温熱療法ヲ併用セル成績ノ報告テアル。4例ニ於テ好影響ヲ認メタ。無効ナリシ者ノ1例ハ治療日數ガ短カカツタ者デアリ、他ノ1例ハ全身状態ノ不良デアツタ者テアル。慢性増殖性疾患ニ殊ニ良イガ、急性ノ者ニモ效果ヲ認メル。作用機轉ハ全身温熱療法テハ初發病竈ノ結核菌發育阻止ニアリ、局所療法テハ充血、食食作用、吸收作用或ハ細菌ニ對スル障礙ニアルト著者ハ想像シテ居ル。(宇多野 内藤抄)

#### 塵肺ニ併發セル同時兩側自然氣胸

L. Grant Glickman and Benjamin H. Schlomovitz: Simultaneous Bilateral Spontaneous Pneumothorax Complicating Pneumoconiosis.

#### 人工氣胸終止ノ標示

Frank B. Stafford: The Indications for Terminating Artificial Pneumothorax.

#### 新人工氣胸器

Robert G. Bramkamp: A new Artificial Pneumothorax Apparatus.

#### 「ツベルクリン」反應ノ強サト證明シ得ル結核病竈ノ頻度

C. W. Well sand H. H. Smith: The Intensity of the Tuberculin Reaction and Frequency of Demonstrable Tuberculous Lesions.

検査總數 4906 名ヲ各年齢ニ渡ツテ居ル。特ニ結核ノ疑アル者ヲ選シテハ無キ。是等ノ中 X 線ノニ病竈ヲ證明セル者ハ 0—9 歳間テ 1mg ノ舊「ツベルクリン」ノ皮内注射ニ反應陰性ナリシ者ノ内ニ 0.5%、0.01 mg 注射反應  $+_2+_3+_4$  ナリシ者ノ内ニ 14.1% アツタ。10—14 歳ノ群テハ「ツベルクリン」陰性ナル者ノ内ニハ 1 例モ無ク、 $+_2+_3+_4$  ナル者ノ内ニハ 14.2% アル。之ガ 15 歳以上ニナルト「ツベルクリン」陰性者ノ内ニ 5.5%、 $+_2+_3+_4$  者ノ内ニハ 12.1% ヲ證明スル。

(宇多野 内藤抄)

#### 氣管枝原發性癌

J. K. Miller: Bronchogenic Carcinoma.

診斷困難ナリシ氣管枝癌ノ 1 例デアアル。47 歳ノ男、呼吸器症狀ト著シキ體重減少、發熱ヲ主訴トシテ入院、X 線寫眞上ニ右肺ニ増殖性結核ヲ思ハス斑點多量ヲ認メ、喀痰中結核菌陰性、赤沈 1 時間 45 mm。白血球數 1500、内桿狀核白血球 6%、多核白血球 71%、淋巴球 23% テ肺結核トシテ治療サレテ居タガ、死後剖檢ノ結果、右側氣管枝ニ原發セル癌ニシテ右肺ノ斑點ハ多發性ノ膿瘍デアツタ。即新生物トテ必ずシモ境界鮮明ナル陰影ヲ示ストハ限ラナイ事ヲ教ヘル 1 例デアアル。

(宇多野内藤抄)

## 結核外専門雜誌

人型結核菌性結核組織乳劑ヲ接種シテ家兎眼ノ前房水及ビ硝子體ノ生物學的實驗成績

Caramazza: Risultati della prova biologica, col methods di Ninni, dall' acqueo o dal vitres prelevati da occhi di conigli che erano stati inoculati con emulsioni di processi tubercolari da bacilli di tubercolosi umana. (Boll. Ocul. 15. Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. Heft 4. 1937.)

著者ハ前實驗ニ引キ續イテ標題ノ如キ實驗ヲ行ツタ。人結核ノ材料、即チ人型結核菌ヲ注射シテ「モルモット」ノ淋巴腺ノ乳劑ヲ家兎眼ニ一部ハ前房ニ、一部ハ硝子體中ニ注射シ、此前房水、硝子體ヲ取ツタ「モルモット」ニ注射シテ家兎眼カラノ材料採取時期ハ種々テ 2 例ハ接種後 4 日、1 例ハ 12 日、1 例ハ 13 日デアツタ、又既ニ眼結核ヲ起シタモノテハ種々ノ間隔即チ 22—55 日ニ採取シタ。前房水内ニハ結核菌ハ常ニ證明出來ナカツタ。

4 例ヲ除クスベテノ例テハ「モルモット」ノ淋巴腺内ニ定型的ノ結核變化ヲ認メ、多數ノ結核菌ヲ塗抹標本並ビニ組織切片内ニ證明シタ、此所見ハ硝子體、前房水何レニ接種シタ時ニモ得ラレタ。

以上ノ結果カラ著者ハ次ノ如クニ考ヘテ居ル。即チ菌ハ短時日内ニ液體中カラ眼組織内ニ固定サレテ、ココニ特殊ノ病變ヲ起スノデアツテ、既ニ病變ヲ起シテシマフト、再ビ結核菌ガ前房水並ニ硝子體内ニ極ク少量ニ現ハレルノデアアル、而モ此ノ量ノ菌ガ「モルモット」ノ淋巴腺ニ結核病變ヲ起スニ充分デアアル。

ト」ノ淋巴腺ニ結核病變ヲ起スニ充分デアアル。

(菅沼定男抄)

眼結核ト肺結核トノ相互關係

Baltin und Kirova: Über die Wechselbeziehungen zwischen Tuberkulose der Augen und der Lungen. (Sovet. Vestn. Oftalm. 2. Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. Heft 8. 1936.)

著者等ハ 50 例ノ眼ノ方ニ最初ニ結核性疾患ノ現ハレタ患者ト 15 例ノ肺ノ散在性ノ結核病電ガアルカ眼ノ方ニ變化ノナカツタ患者ニ就テノ検査成績ヲ報告シテ居ル。眼疾患ハ 10 歳カラ 50 歳ノ間ニ發生シ 26 例ハ男テ 24 例ハ女デアツタ。結核性變化ハ角膜、葡萄膜及ビ網膜ニ現ハレル。シカシ、ソノ半数ハ葡萄膜系ヲ侵シテ居タ。全症例ノ 54% テハ眼ト肺ト兩方ニ結核性變化ガアツテ、眼疾患ハ轉移性ニ來タモノデアアル。48 例ニ就テ血液ヲ検査シタガ、培養シテモ「モルモット」ニ移殖シテモ、結核菌ヲ證明シ得ナカツタ。

(菅沼定男抄)

眼結核ノ治療法ニ就テ

De'Cori: Sulla terapia delle manifestazioni tubercolari dell'occhio. (Atti Congr. Soc. Oftalm. ital. 1936. Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. Heft 8. 1936.)

著者ハ人型結核感染豚ノ肝臟カラ抽出シタ、脂肪分解酵素テ眼結核ヲ治療シタ。試験管内並ビニ實驗的ニソノ效果ヲ確メタ後ニ治療ニ用ヒタ。著者ハ曩ニソノ效果ニ就テ述ベタガ、今回尙ホ 2 例ニ之ヲ行ツタ。

第 1 例ハ 5 年前カラアツタ 右眼ノ 定型的ノ 虹彩毛様  
體炎患者デアツタ。ソノ 右眼ハ 結核ノ 爲メニ 既ニ 摘  
出シテアツタ。以後 2 日毎ニ 3 cc 宛 20 同筋肉内ニ 注  
射シテラ 症状ハ 全ク 消退シタ。結核性虹彩毛様炎及  
び脈絡膜炎ノ 第 2 例ハ 15 日後ニ ヨクナツテ來テ今尙  
ホ 治療中デアアル、2 例共體重ハ 増加シタ。

(菅沼定男抄)

#### 眼葡萄膜結核ノ 病理解剖的變化

Valichan: Pathologisch-anatomische Veränderungen  
bei Tuberkulose des Gefässtractus des Auges. (Sovet.  
Vestn. Oftalm. 8. Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. f.  
Ophth. 1937.)

著者ハ 結核性葡萄膜炎ヲ 失明シテ 摘出シタ一 眼ト、全  
身粟粒結核ヲ 死亡シタモノ、二 眼トヲ 病理解剖的ニ  
検査シタ。

第 1 例テハ ソノ 標本中ニ 顯微鏡的ニ 結核菌ヲ 證明シ  
得ナカツタガ、ソノ スベテノ 所見ハ 結核特有ノ 變化テ  
アツタ、硝子體ノ 中ニモ 數個ノ 小サイ「ツベルクル」ガ  
アツタ。

(菅沼定男抄)

#### 「トリプトファン」反應ノ 臨牀的價値

Heuven: The clinical value fo tryptophan-reaction.  
(Brit. J. Ophth. 20. Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. f.  
Ophth. 1937.)

Schumacher ニヨル「トリプトファン」反應ハ 結核性胸  
膜炎ノ 時ニハ 常ニ 陽性デアアルガ、他ノ 場合ニハ 腦脊髓  
液ガ 強ク 濁濁シ、血液混入シ 或ハ 膿性テナイ 限り 常ニ  
陰性デアアルト、著者ハ 前房水ト 腦脊髓液トノ 密接ナ 關  
係ニ 基イテ、結核性眼疾患ノ 診斷ニ 前房水ノ「トリプ  
トファン」反應ヲ 應用シタ。

ソノ 方法ハ 次ノ 如クデアアル。1, 5cc ノ 濃醋酸ヲ 0.1—  
0.2cc ノ 前房水ニ 加ヘ、之ニ 2% 「フェルマリン」液 1  
滴ヲ 入レル。之ヲ ヨク 振盪スル、5 分間 放置シタ後ニ  
0.6% 硝酸液 0.2cc ヲ 靜カニ 重積スル。2—3 分後ニ  
ソノ 境界面ニ 紫色環ガ 出來タナラ、ソノ 反應ハ 陽性ナ  
ノデアアル。

人及ビ 家兎ノ 正常前房水テハ 陰性デアアツタガ、反應性  
炎症ノ アツタヤウナ 時ニハ、陽性デアアツタ。

ソレ故 著者ハ、此 反應ハ 血液、白血球ノ 爲メニ ヨツテ  
起ルモノデアアルト 考ヘテ居ル。

又 第二前房水モ 人工的ニ 作ツタ 結膜浮腫テモ 陽性ノ  
結果ヲ 得タ、結論トシテ 著者ハ「トリプトファン」反應  
ハ 結核ニ 特有ノ モノテナク、毛細血管ノ 滲透性ノ 亢進

シタコトニ 對スル 反應デアアルト 述ベテ居ル。

(菅沼定男抄)

#### 結核性眼疾患ノ「ツベルクリン」療法

Ssamooilow und Kanzelson: Tuberkulintherapie bei  
tuberkulösen Augenerkrankungen. (Sovet. Vestn.  
Oftalm. 8, Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. Heft 9. 1937.)

「ツベルクリン」療法ニ 對シテ 諸家ノ 意見ハ 區々デア  
アルガ、ソレガ 有效デアアルコトニハ 誰モ 異存ハナイ。コ  
レヲ 有效ナラシメルニハ 患者ヲ 正シク 撰ビソノ「ツベ  
ルクリン」ノ 量ヲ 正確ニ シナケレバナラナイ。「ツベル  
クリン」ノ 治療的効果ハ、ソノ 結核ノ 型ニ ヨツテ 同  
一テナナイ。轉移性ノ「アレルギー」性疾患ノ 際ニハ 免  
疫狀態ニ ヨツテ 定メナケレバナラナイ、眼結核テハ 機  
械的ナ 型ニハ マツタヤウナ「ツベルクリン」療法ハ 不  
可デアアル。特ニ「アレルギー」性ノ 子供ニ 於テハ 注意  
シナケレバナラナイ。轉移性眼疾患ノ 際ニハ ソノ 體  
ニハ 眼以外ニ 活動性ノ 病竈ハ ナイ。ソレ故「ツベルク  
リン」療法ハ 眼科醫ノ 手ヲ 行ツテヨイ。シカシ「アレ  
ルギー」性ノ「フリュクテン」性疾患ノ 際ニハ、新ラシイ  
氣管枝ニ 病竈ガ アルカラ、ソノ 治療ハ 結核専門醫ニ 委  
セナケレバナラナイ。著者等ノ 見タ 200 例ノ 轉移性  
眼結核患者ノ 内、ソノ 98% ニ 於テ 眼ガ 唯一ノ 活動性  
病竈デアアツタ、一般ニ 肺ノ 劇シイ 結核ハ 血液中ニ 澤山  
ノ 免疫體ヲ 出シ、ソレガ 眼病ヲ 豫防スルト 考ヘテ居ル  
ガ、胸部病竈ガ 非活性ニ ナルコトハ、眼ニ 轉移性ノ 病  
竈ヲ 作ル 危險ガ アル。眼ニ 輕イ、癥痕化シタ 病竈ノ  
アル場合ニハ 肺ニ 重症ノ 變化ヲ 來スコトガ アル、眼ト  
肺共ニ 重症デアアルヤウナ 症例ハ ナイ。故ニ「ツベルク  
リン」療法ハ 過敏ナ 結核性眼疾患ニ 用フベキテ、ソレ以  
外ノモノニ 用フルノハ 危險デアアル。吾々ハ 眼ノ 反應  
ニ ヨツテ「ツベルクリン」ノ 量ヲ 正確ニ 定メル。

「ツベルクリン」療法ヲ 二大別スルトソノ 一ツハ 過敏  
狀態ニスル所ノ 少量ヲ 用フル方法デアアリ、他ノ 方法ハ  
全ク 免疫シテ、「ツベルクリン」ニ 對シテ 抵抗ヲ 得サセ  
ルモノデアアル。眼結核ヲ 治療スル前ニ 體溫ヲ 計ツテ、  
ソノ 全身症状ヲ 檢ベ、「ツベルクリン」皮下反應ヲ 檢  
査シ、「レントゲン」ニ ヨツテ 肺所見ヲ 見ル、「ツベル  
クリン」治療中モ 結核専門醫ト 相談スルコトハ 必要テ  
アル。

「フリュクテン」患者ノ 大部分ハ「ツベルクリン」ノ 100  
萬倍又ハ 10 萬倍テ 反應スル。眼局所テハ 1:10<sup>9</sup> 1:10<sup>10</sup>  
ノ 濃度ノ 液ノ 點眼テ 陽性デアアル。



著者等ハ5年間ニ110例ノ轉移性ノ結核ヲ「ツベルクリン」ニヨツテ治療シタ。ソレニハコッホノ舊「ツベルクリン」ヲ用ヒ、ソノ種々ノ濃度ノモノヲ皮下ニ注射シタ、同時ニ局所療法及ビ安靜、肉體的療法ヲモ行ツタ。葡萄膜炎、網膜葡萄膜炎テハ38例(76眼)ガ治療シタ。注射ハ3日毎ニ行ツタ。最初ハ0.1カラ始メテ0.9マテ用ヒタ。100倍トイフヤウナ濃イモノ、場合ニハ4—5日毎ニ注射シタ。

「ツベルクリン」療法ハ轉移性結核性眼疾患ノ内テ脈絡膜疾患ニ對シテ最モ效果ガアツテ87%ハ結果良、13%ハ稍々良、角膜炎、鞏角膜炎テハ65%良、33%稍々良、2%不良、虹彩炎、虹彩毛様體炎テハ最モ悪ク44%良、31%稍々良、25%不良デアツタ。

兎ニ角「ツベルクリン」療法ハ轉移性眼疾患ニ對シテハ最モ效果ガアルト云ヘル。(菅沼定男抄)

#### 結核ト其療法

Pavicevic: Die Augentuberkulose und ihre Behandlung. (Vojno-san. Glasnik 7, 1936. Zentralbl. f. Ophth. 37. I d. Heft 9. 1937.)

著者ハベルグラードノ陸軍病院ニ於ケル1933年以來ノ眼結核ノ治療ヲ報告シテ居ル、栄養食、強壯劑、沃剥、灰白軟膏塗擦等ヲ行ヒ、原因ガ確カニ結核ノ場合ニハ「テベプロチン」ヲ用ヒタ。患者ハ鞏角膜炎1例、散在性網膜脈絡膜炎3例、視神經網膜炎1例、靜脈周圍炎1例、増殖性網膜炎2例デアツタ。全症例ニ於テ治療中ニ自覺的、他覺的ニ迅速ニヨクナツテ、視力モ増加シタ。増殖性網膜炎ノ1例ガ再發シ、鞏角膜炎テハ無効デアツタ。(菅沼定男抄)

#### 腺病質兒ノヒドロフィリー性検査

Kotljarewskaja und Kisselewa: Hydrophile Probe bei Scrophulosis (Sovet. Vestn. Oftalm. 9. Zentralbl. f. Oph. h. 37. Bd. Heft 10. 1937.)

Auldreich 及ビ Mac Cluse ノ推賞スル Hydrophile 検査即チ生理的食鹽水0.2ccヲ皮下ニ注射シテ、ソノ消失速度ヲ測定スル方法ノ追試ヲ行ツタ。本方法ノ成績ハ今マテモ可成リ區々デアツタガ、著者ハ7—14歳ノ10人ノ健康兒ト、種々ノ腺病性眼疾患ヲ有スル43人ノ小兒ニ就テ検査ヲシタ。スベテ胸部ハ「レントゲン」ニヨツテ検査シタ。ソレニヨルト16例ハ新鮮ナ急性ノ肺炎患ヲ、27例テハ肺門淋巴腺及ビ肺臟ノ非活動性變化ヲ證明シタ。

水泡ノ消失ハ健康兒テハ50—90分、患兒テハ18—

158分デアツテ、此持續時間ト肺所見竝ビニ「ツベルクリン」敏感度及ビ眼疾患ノ發生トノ間ニハ一定ノ關係ノナイコトヲ知ツタ。(菅沼定男抄)

#### 結核性眼疾患ノ診斷及ビ治療トシテ舊「ツベルクリン」ノ局所的應用

Baltin: Lokale Wendung von Alttuberkulin in der Diagnostik und Therapie der tuberkulösen Augenerkrankungen. (Sovet. vestn. Oftalm. 8. Zentralbl. f. Ophth. 37. Bd. Heft 10. 1937.)

著者ハ Gomez Marquez 及ビ S. Jiménez —ヨル局所的「ツベルクリン」診斷法ヲ追試シタ。37例ノ結核性及ビ非結核性原因ニ基ク眼疾患患者ニ種々ノ濃度ノ「ツベルクリン」液ヲ點眼シタ(ソノ稀釋ハ1:10<sup>20</sup>カラ1:10マテ)ソノ結果ハ Marquez, Jiménez ノ云フ所トハ異ツテ、タツタ1例ノ腺病性眼疾患患者ニ1:10<sup>20</sup>或ハ1:10<sup>10</sup>稀釋液ヲ點眼シタ後ニ多少反應ガ起ツタ。結核性竝ビニ非結核性眼疾患患者ノ大多數テハ1%ノ「ツベルクリン」液ヲ點眼シタ時ニ反應ガ起キタ。確カニ結核性ノ眼疾患ト思ハレル患者テモ、之以上ニ薄イ液テハ反應ガナカツタ。1%「ツ」液ヲ點眼シテ後ニ起キルコノヤウナ反應ハ、以前カラ Wolf-Eisner 及ビ Calmette ニヨツテ全身ノ結核感染ノ診斷法トシテ用ヒラレ、而モ之ハ結核性眼疾患ノ有無ニ拘ラナイノテ常ニ陽性ニ出ルノデアルカラ、以上ノヤウニ1%「ツ」液ヲ點眼シテ、之ガ陽性ニ出テモ、ソノ時ノ眼疾患ガ結核性デアルト見做スコトハ出來ナイ。

シカシ著者ノ實驗ニヨルト、「ツ」液ノ濃度ヲ次第ニ高メテ繰リ返ヘシテ點眼スレバ、輕イ結核性鞏膜炎及ビ上鞏膜炎ニ對シテハ、多少治療ノ效果ガアルト。

(菅沼定男抄)

#### 結核性眼疾患ノ脾臟抽出液療法

Grzedzielski und Jan de Lapierre: Die Behandlung tuberkulöser Augenerkrankungen mit Milzextrakt. (Klin. Oczna 14. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 3. 1937.)

結核性疾患ハ眼ノスベテノ部分ニ起ルガ、「ツベルクリン」療法ハ、特ニ網膜靜脈ニ疾患ノアル時ニ害ガアル。氣象的療法ハ有産者ニノミ可能デアリ、石灰療法モ效果ガアルトハ限ラナイ。著者ハ脾臟抽出液ヲ膠狀ニシテ用ヒタ、先ヅ最初ニ纖維素性虹彩炎ヲ有スル兩側空洞性肺癆ノ患者ニ用ヒタ。筋肉内注射ヲ繰リ返ヘシタ所、眼ノ症狀ハナクナリ、視力モヨクナツタ、

尙ホ此外漿液性虹彩炎、亞急性虹彩毛様體炎、散在性脈絡膜炎等ニ用ヒタ。注射後ニ體温ハ38°マテ上昇スルコトガアル。1例テハ注射後ニ輕イ虚脱様症狀ガ現ハレタ。本療法ハ纖維素性虹彩毛様體炎ニヨイガ、漿液性並ビニ成形性虹彩鞏膜炎ニモ效ク、又鞏膜炎、角膜實質炎ニモヨイ。(菅沼定男抄)

#### 結核性眼疾患及ビソノ治療ニ對スル注意

Weil: Considérations sur les affections tuberculeuses de l'oeil et leur traitement. (Bull. Soc. Ophthalm. Paris Nr. 3. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 3. 1937.)

現在佛國ニハ眼結核ニ對スル氣候療養所ガナイ。Werdenberg ガダボステ確メタヤウニ、眼結核ニ對シテ、氣候療法ハ必要テアルカラ、佛國ニ於テモ結核性眼疾患患者ノ爲メニ、ソノ氣候療養所ヲ開設シナケレバナラナイ。(菅沼定男抄)

#### 結核性虹彩毛様體炎ト肺結核

Aguilar und J. Lijó Pavia: Iridociliare Tuberkulose und Lungentuberkulose. (Semana méd. 1936. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 3. 1937.)

著者ノ經過シタ症例ハ11歳テランケノ第二期ニアツテ、肺門淋巴腺、兩側滲出性肋膜炎ト一眼ハ水晶體ヲ除ク、全眼部ノ増殖型結核ヲ證明シタ。開放性結核ヲ有スル兄カラ傳染シタモノデアアル。(菅沼定男抄)

#### 眼結核ノ「ツベルクリン」療法

Natanson und Gotlieb: Über die Tuberkulintherapie bei Augentuberkulose. (Trans. ukrain. Hirshman mem. ophthalm. Inst. 3. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 4. 1937.)

20世紀マデハ眼結核ハ非常ニ稀レナモノトサレ、20世紀ニナツテカラ漸ク可成アルコトガ知ラレ、ヒルシユベルグノ統計ニヨルト5000—6000人ニ1人位トサレタ。然ルニ最近診断ガ確實ニナツテカラ結核性眼疾患ハモット多イモノデアアルコトガ知ラレテ來タ。ソシテソノ治療ニ「ツベルクリン」ガ非常ニ川ヒラレルヤウニナツテ來タ。

著者ハ治療トシテヨッホノ「ツベルクリン」ヲ用ヒタ。「ツベルクリン」ハ大抵ノ場合ニ皮下ニ注射シタガ、特ニ注意ヲ要スル新ラシイ角膜炎、葡萄膜炎ノ際ニハ皮内注射ヲ行ツタ。注射ハ3日毎ニ行ツタ。此際全身、局所及ビ病竈反應ニ注意シタ。反應ノ烈シイ時ニハ期間ヲ延バシタ、診断ニハマンロー氏反應ヲ用ヒ

タ(大人テハ5000倍、6000倍、子供テハ10000倍)。治療ニハ10000倍カラ始メテ、次第ニ増量シタ。治療中ハ凡テノ患者ヲ結核専門醫ノ監督ノ下ニ置イタ。總數26例検査シタガ、マンロー氏反應ハスベテ陰性デアツタガ、マンロー氏反應ハ6例強陽性、12例陽性、7例弱陽性、1例陰性デアツタ。血液ノ型態ノ検査ヲシタガ、赤血球、白血球數、血色素ノ量ハ殆ンド正常デアツタガ、往々淋巴細胞増加が見ラレタ。

26例ノ内13例ハ葡萄膜炎疾患、11例ハ角膜疾患、2—3例ハ黄斑部疾患デアツタ。

以上ノ觀察ニ基イテ著者ハ次ノ如クニ結論シテ居ル。結核性眼疾患ハ眼ノ種々ノ場所ニ來ル。

特殊療法ハ新鮮ナ症例ノミテナク陳舊ナモノニモ有效デアアル。

「アレルギー」ノアル場合ニハ使用ハ注意深クシナケレバナラナイ。

治療效果ノアル最少量ハ10000倍ノ液デアアル。

最モ效果ノアルノハランケノ第二期早期ニ屬スル角膜及ビ葡萄膜炎疾患デアアル。

赤血球沈降速度ノ検査デハ、他ノ人ノ云フヤウニ葡萄膜炎疾患テハ速カナリ、角膜疾患ノ際ニハ遅クナルト云フヤウナ成績ハ得ラレナイデ、病機ノ古イモノテハ正常、ランケ第二期ニ屬スル新ラシイモノテハ速クナリ、ランケ第二期早期ニ屬スルモノテハ又正常デアツタ。

白血球ノ型態ノ變化ガ認メラレタ多クノ症例テハ淋巴細胞増加ガ、葡萄膜炎疾患ニ於テハ白血球減少が見ラレタ、角膜疾患ニ於テハ淋巴細胞増加ト白血球減少ガアツタガ屢々白血球増加モ見ラレタ。赤血球ハ變化ナカッタ。(菅沼定男抄)

#### 肝油ノ筋肉内注射ニヨル腺病性眼疾患療法

Buschmitch: Behandlung der Skrofulösen Augenerkrankungen mit intramuskulären Lebertraninjektionen. (Sovet. Vestn. Oftalm. 9. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 5. 1937.)

著者ハ種々ノ腺病性眼疾患患者ノ48例ニ次ノ注射液ヲ用ヒタ Ol. Jecoris Aselli, Ol. amigdalorum 1:1. 1瓦ツツ25—30回注射シタラ自覺的、他覺的共ニ良好トナツタ。(菅沼定男抄)

#### 結核性及ビ腺病性眼疾患ノ統計

Jufa: Zur Statistik der tuberkulösen und skrofulösen Augenerkrankungen. (Sovet. Vestn. Oftalm. 9. Zen-

tralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 5. 1937.)

著者ハ Charkow ノ眼科外來ニ於テ 1930 年カラ 1934 年マテノ 10927 患者中ニ 170 例ノ轉移性結核性眼疾患ト 418 例ノ腺病性眼疾患患者トヲ見タ。男女略々同數テ男 89 例、女 81 例デアツタ。之ニ反シ腺病性疾患テハ女ノ方が多ク、女 248 人ニ對シテ男 170 人デアツタ。此内ノ 53% ハ 10 歳マテノ子供デアツテ、28% ハ 10—20 歳、12% カ 21—30 歳デアツタ。轉移性結核性眼疾患ノ 50% ハ 21—30 歳ノ人ニ來テ、ソノ 40% ハ前部葡萄膜炎ト角膜葡萄膜炎 30% ハ脈絡膜炎、脈絡網膜炎、15% カ虹彩炎デアツタ。(菅沼定男抄)

#### 眼結核ノ診斷ト Kressling 「ツベルクリン」注射療法

Sukonzikowa: Diagnostik der tuberkulösen Prozesse im Auge und Behandlung mit Injektionen von Kressling-Tuberkulin. (Sovet. Vestn. Oftalm. 9. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 5. 1937.)

著者ハ最近 5 年間ニ數百例ノ種々ノ眼結核患者ニ就テ Kressling 「ツベルクリン」療法ヲ行ツタ。ソシテ良結果ヲ得ル爲メニ出來ル限リ早期ニ治療ヲ開始シタ。マントー氏反應ハ陽性デアツタ。ソレ故眼疾患ニ對シテ直接結核ガ證明サレナイ場合ニ於テモ之ハ必要デアアル。

コッホノ検査ハ時ニ病竈反應ヲ起ス危險ガアルカラ充分注意シテ行ハナケレバナラナイ。Kressling ノ「ツベルクリン」ノ治療量ヲ用ヒテモ、病竈反應ヲ起スコトガアルガ、ソノ經過ハヨクテ、少シモ危險ハナイ。特ニ結核性脈絡膜炎ニハ效果ガアル。本療法ヲ行ツタ 60% ニ於テ視力ガ恢復シテ全治シタ。

(菅沼定男抄)

#### 角膜結核ノ「ツベルクリン」療法

Neminskij und W. P. Salkin: Zur Frage der Behandlung der Tuberkulose der Hornhaut mit Tuberkulin (Sovet. Vestn. Oftalm. 9. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 5. 1937.)

結核性角膜虹彩炎ノ 32 例ヲ入院サセテ舊「ツベルクリン」テ治療シタ。ソノ内 5 人ハ 5—7 歳、22 人ハ 8—16 歳テ 5 人ハ 16 歳以上デアツタ、此外 39 人ヲ外來テ治療シタ。ソノ内 10 人ハ小兒テ 29 人ハ大人デアツタ。「ツベルクリン」療法ハ既ニ之マテ長ク、非特異性ニ治療シテ效ノナイモノニ行ツタ。

ソノ量トシテハ、角膜ニ肉眼的ノ輕イ病竈反應ヲ起ス

量ヲ用ヒタ。ソノ結果ハ非常ニ良好デアツタ、9 例テハ再發シテ又本療法ヲ繰リ返ヘシタ。(菅沼定男抄)

滿洲ニ於ケル日本人ノ眼結核ニ就テノ統計的觀察 Isayama: Eine statistische Beobachtung über Augen-tuberkulose bei Japanern in der Mandchurei. (J. of orient. Med. 26. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 8. 1937.)

眼結核ノ罹患率ハ内地ニ於ケルヨリモ稍ク低イ。「フリュクテーン」ハ 10 歳マテノ間、他ノ結核性眼疾患ハ 10—20 歳ニ多イ。又「フリュクテーン」ハ 7 月ニ多ク、他ノ眼疾患ハ 2 月ト 8 月ニ一番多イ。(菅沼定男抄)

#### 「メテル、アンチゲン」ニヨツテ治療シタ結核性葡萄膜炎ノ 1 例

Núñez Llanes: Ein Fall von tuberkulöser Uveitis, mit Methylantigen geheilt. (Rev. cub. Oto-Neuro-Oftalm. 5. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 8. 1937.)

結核性葡萄膜炎及ビソノ「メテルアンチゲン」ニヨル治療ノ補遺トシテ 12 歳ノ患者ノ 1 例ヲ記載シテ居ル、顔面蒼白、ヤ、無力性テ、頸部淋巴腺腫脹シ、視力減退ヲ訴ヘタ。「レントゲン」検査ニヨツテ肺門淋巴腺腫脹ヲ認メ、マントー氏反應ハ弱陽性デアツタ。結核性脈絡膜炎ノ疑ヒノ下ニ「メテルアンチゲン」ヲ次第ニ増量シテ用ヒタ。即チ 1/4cc カラ始メテ 1 週 2 回ヅツ行ヒ 1 cc ニ至ルマテ注射シタ。視力ハ急速ニヨクナリ、眼ノ自覺症状モ次第ニナクナツタ。「メテルアンチゲン」ノ他ニハ榮養良法ヲ行ツタノミデアアル。

(菅沼定男抄)

#### 眼結核ノ 3 例

Eissa and Sabri Kamel: Three cases of tuberculosis of the eye. (Bull. ophthalm. Soc Egypt 29. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 8. 1937.)

第 1 例ハ 17 歳ノ少女テ、涙腺及ビ結膜ノ結核ガアツテ、ソレヲ切除シタ後全身療法ヲ行ツタラ、非常ニ結果ガヨクツタ、之ハ原發性ノ結核デアアル。他ノ 2 例ハ子供テ、脈絡膜及ビ毛様體ノ結核テ、既ニ眼膜ハ一ヶ所ヲ融合シテ居タ。1 例ハ眼球ヲ摘出シタ後全ク健康ニナツタガ、他ノ 1 例ハ粟粒結核テ死亡シタ。

(菅沼定男抄)

#### 結核ノ金鹽療法後ニ眼球前半部ニ炎症ノ現ハレタ 1 例

Terrien et Halbron: Un cas de segmentite antérieure chez un tuberculeux traité par les sels d'or.

(Bull. Soc. Ophthalm. Poria. Nr. 9. Zentralbl. f. Ophth. 38. Bd. Heft 10. 1937.)

肺結核ヲ有スル46歳ノ男子テ Myoral テ治療サレタ。暫クシテ左眼ニ結膜炎、鞏膜炎ヲ起シタ。普通ノ療法ヲ行ツタガ良クナラナイデ10日後ニ角膜虹彩炎ヲ起シタ。金療法ヲ中止シタラヨクナツタ。角膜浸潤ハ尙ホ3週間アリ、左眼ニハ3ヶ月モ輕度ノ虹彩炎ガアツタ。6ヶ月後ニ全ク無刺戟トナツテ、癍痕ヲ殘シタ。(菅沼定男抄)

#### 皮膚及ビ結膜結核ノ1例

Urbanek: Fall von Haut- und Bindehauttuberkulose. (z. Augenheilk. 91. 1937.)

15歳ノ患者テ右眼ニハ麥粒狀ノ顆粒ガ多發シ、左眼瞼板ニハ結節ヲ生ジタ。顯微鏡的ニ見ルト、上皮細胞「ツベルケル」、巨大細胞ヲ認メタ。チール、ネルセン氏染色ニヨツテ、抗酸性桿菌ヲ見、動物實驗モ陽性デアツタ。「レントゲン」検査ニヨツテ、肺門ニ數個ノ石灰沈著竈ヲ認メタ。

皮膚疾患ハ一部ハ Acne luposa 或ハ Lupus follicularis disseminatus, 一部ハ Lichen nitidus テアツタ。結核ノ初發病竈ハ判明シナイ。レウ・ユ・レス・タイン氏血液検査ハ數日後ニ陽性ニナツタ。(菅沼定男抄)

#### 眼結核ノ臨牀

Mehlmack: Zur Klinik der Augentuberkulose. (Arch. f. Augheilk. 110. Bd. 1. Heft 1936.)

著者ハ1921カラ1934年ニ至ルマテノライプチヒ大學眼科ノ患者中ノ眼結核患者ニ就テ統計ヲ行ツタ。總數ハ335人テ、内男144人、女191人テ、罹患率ハ10歳マデハ男女略ク同シテアルカ30—40歳テハ女ノ方ガ多イ、而シテ破瓜期ハ結核ニ罹リ易ク、高齢者テハ稀レテアルカ、女テハ月經閉止期ニ又多イ。

兩眼ガ相前後シテ侵サレルコトアリ、又兩眼同時ニ侵サレルコトモアル。

眼疾患中葡萄膜炎患者ガ多イ、而モ虹彩毛樣體ガ多ク侵サレル。

葡萄膜炎患者ハ病理解剖的ニハ増殖型、纖維素型、滲出型ガアルカ勿論ニ等ノ混合型モアル。著者ノ例テハ滲出型ガ最モ多ク132例アツテ、49例ガ他ノ型デアツタ。此増殖型ノモノテハ臨牀的ニハ小結節ヲ作り、若イ人ニ來ル。シカシ婦人テハ月經閉止期ニ現ハレル、ソノ初發病竈ハ殆ンド常ニ胸部ニ在ツテ、而カモソノ17例中9例ハ活動性テ、8例ガ非活動性デアツ

タ。他部結核ハ3例アツタ。「ツベルクリン」反應ハ多ク陽性デアツタガ、重症ナ肺變化ガアツテモ、之ガ陰性デアツタコトガアル。葡萄膜前部ノ結核テハ滲出型ガ遙カニ多ク、沈降物ヲ生ズル慢性虹彩毛樣體炎デアアル。此滲出型ハ女ニ多ク82:50テ年齢ハ20—30歳ソノ初發病竈ハ胸部ニアルモノカスベテノ $\frac{1}{3}$ テ内活動性15例、非活動性31例、「ツベルクリン」反應ハ殆ンド總テ陽性デアツタ。

脈絡膜結核ハ男女略ク同數テ30歳代ガ多ク、所見トシテハ孤立結核ガ多カツタ。「ツベルクリン」反應ハ多クノ場合陽性。

網膜ノ結核トシテハ靜脈周圍ガ見ラレ、中年ノ男子ニ非常ニ多イ。「ツベルクリン」反應ハ多ク陽性。

鞏角膜ノ結核トシテハ上鞏膜ガ侵サレルコトガ多イ。女ニ多ク、ソノ年齢ハ30—40歳。屢ク活動性肺變化アリ、「ツベルクリン」反應ハ常ニ陽性。

角膜ノ結核トシテハ結核性角膜實質炎、結核性深層角膜炎共ニ殆ンド同程度ニ現ハレル。

結膜ノ結核ハ稀レテ3例、内1例ハ外因的2例ハ内因的デアツタ。

治療法トシテハ榮養療法、高山療法、「ツベルクリン」療法等ガアルカ、高山療法ガ有效テ、重症26名中20名ガ全治シタ。「ツベルクリン」ハソノ適應症ヲ定メルコトガ困難テ、増殖型、纖維素型ハ有效テアルカ、滲出型ニハ禁忌デアアル。

局所療法トシテハ、食鹽水結膜下注射ヲ脈絡膜及ビ網膜ノ滲出型ニ用ヒ、31例中21例治癒シタ。「レントゲン」照射モ増殖型ニハ有效テ、26例中16例テ好結果ヲ得タ。(菅沼定男抄)

#### 眼結核ノ血清學的變化

Gehartz: Die serologische Tuberkuloseprobe bei der Augentuberkulose. (Arch. f. Ophth. 136. Bd. 3. Heft 1936.)

16例ノ虹彩炎患者テハベスレドカ氏反應ハ7例陰性デアツタ。ワ氏反應ハ皆陰性、血液反應ノ陰性デアツタ2例ハレントゲン検査ニヨツテ結核性變化ガ殘ツテ居ルノガ見ラレタ。他ノ例ハ皆「レントゲン」検査成績ガ陰性デアツタ。7例ノ非微毒性角膜炎テハ5例ガ結核菌補體結合反應ガ陽性デアツタガ、此反應ハ微毒性角膜實質炎テハ陰性デアツタ。硝子體溷濁ノ4例ニ於テ3例ハ血液反應強陽性、肺所見ハ陰性。血液反應陰性ノモノテモ「レントゲン」検査ニヨツテ肺ニ所見ガ

アツタ。3例ノ網膜出血ニ於テ血液反應ハ陽性デアツタ。同時ニ是等ノ症例テハ多發性硬化症ノ初期症狀ガ認メラレタ。ソレ故著者ハ網膜出血ヲ初期結核菌毒素性多發性硬化症ノ症狀ノ中ニ入レテ居ル。21例ノ視神經炎患者中4例ハ血液反應陰性デアツタ。此内脊髄液ノ反應ハ1例強陽性、1例弱陽性、1例ハ疑ハシカツタ。是等ノ内タツタ2例ニ於テ、肺所見ヲ認メ、16例ニ於テ多發性硬化症ヲ認メタ。コニ於テ著者ハ結核ノ血液反應ヲ奨メルト共ニ、此成績カラ多發性硬化症ノ結核菌毒素説ヲ支持シテ居ル。

(菅沼定男抄)

脈絡膜ノ粟粒結核

Hudelo et Jean Voisin: Tuberculose miliaire de la choroïde. (Arch. d'Ophthalm. N. 1. 1937.)

著者ノ報告シテ居ル症例ハ36歳ノ患者デアツテ有熱性肝臟炎トシテ來院シタモノデアアル。間モナク敗血症トナリ、譫妄ヲ發シタ、最初ハ肝臟炎、敗血症、肺炎等ヲ考ヘタ。シカシ「レントゲン」検査、血液培養等ハ行ハナカツタ。兩眼ノ視神經炎ヲ起シテカラ9日目ニ右眼底後極部ニ6—8個ノ脈絡膜病竈ヲ發見シタ。患者ハ4日後ニ死亡シタ。剖檢ニヨツテ肺ノ粟粒結核及ビ腦膜炎トヲ見出シタ。脈絡膜病竈ハ單ニ淋巴細胞ノ集合カラ成ツテ居テソノ中ニ少數ノ結核菌ヲ證明シタ。

(菅沼定男抄)

## 一般學術雜誌

小鹿ト鷺ノ結核

S. Salomon: Tuberkulose beim Reh und beim Schreiadler. (Berliner Tierärztliche Wochenschrift 1937. Nr. 12.)

J. Schmidt ハ野獸ノ結核ハ餘リ珍ラシモノナラズト云フモ、Olt 及ビ Ströse ハ野外ニ於ケル動物ノ眞ノ結核ハ少クシテ、多クハ檻ノ中ニテ飼養サレタルモノニアリト云フ。著者ハ野外ニアリシ小鹿ノ結核ニツキ報告セリ。生後6月ノ小鹿ニシテ榮養不良ニテ死ス。解剖所見、肺ニ粟粒結核ノ如キ像アリ塗抹標本ニテ多數ノ抗酸性菌ヲ證明ス、氣管枝、腸間膜其他各部ノ淋巴腺ニ乾酪様變性アリ、脾、肝ニ粟粒大ノ灰黃色ヲ呈セル病竈ヲ發見セリ。

鷺ノ結核、一羽ノ衰弱セル鷺ヲ捕ヘ良キ飼育ニヨリ半年程健康状態ニアリシモノ亦再ビ榮養不良トナリ、流涎、嘔吐ヲ來シ死ス。解剖所見、肝ハ腹腔ノ大部分ヲ占メ肥厚シ、表面ハ臃腫ノ膜ニテ被ハレ黃色ノ結節處々ニアリ、脂肪様物質ヲ壓出ス、胃ハ肝ニヨリ壓セラレ腹ヨリヤ、廣キ腔ヲ有スルノミトナル。脾ハ櫻實大肝ニ於ケル如キ病竈アリ肺、心筋ニモ同様ノ結節アリ。鏡檢スルニ抗酸性菌ヲ證明ス。此ノ場合ノ感染ハ捕ヘタル時ノ衰弱セル状態、肝ノ解剖所見ヨリ多分野外生活中ニ惹起セルモノデアラウ。

(北研 野中抄)

獅子ノ結核病

Raethel: Tuberkulose beim Löwen. (Berliner Tierärztliche Wochenschrift 1937. Nr. 27.)

家畜ニ於ケル結核罹患數ハ相當ニ多數アルモノニシテ、之ハ非衛生的ノ狭イ檻ノ中ニ於ケル共同生活ニ依ル、殊ニ自然生活ヨリ遠ザカル程結核ニ對スル、防禦力喪失スル、斯ル方面ノ文獻ハアルモ猛獸ニツキテノ文獻ハ頗ル少イ。

曲馬團ニ飼養サレタル獅子群ニテ結核死亡セルモノガアル。父獅子ハ捕獲セルモノ、母獅子ハ檻ノ中ニテ生レタルモノ、此ノ子獅子ニテ生後2年ニシテ氣管枝肺炎様症狀ヲ呈シ食慾ヲ失ヒ2週ニシテ瘦削シ1月後ニ惡液質様トナリ死ス。其後2年半ニシテ他ノ1匹ガ同様ノ症狀ヲ呈シ、重篤トナリ死亡ス。解剖所見、胃腸粘稠ナル粘液少量アリ、骨盤腔内淋巴腺ハ腫大ナク割面軟化ス、胸部、肺萎縮シ健康肺組織ハ處々ニミルノミ、肺基底部及ビ肺炎ノ廣範圍ニ慢性ノ硬變性炎症アリ、間質結締織ノ新生、肉質性變性アリ。橫隔膜葉ニハ鷄卵大ノ空洞アリ、此ノ壁ニ小豆大ノ新生物アリ割面ハ乾酪様物質アリ塗抹標本ニテ抗「アルコール」抗酸性ヤ、彎曲セル桿菌ヲ見ル、以上ノモノハ結核性肺炎ニシテ其ノ傳染機轉ハ空氣感染ニシテ吸入性疾患ナルヲ知ル。

(北研 野中抄)

## 會報並ニ雜報

### ○會員ノ計

評議員吉本清太郎氏ノ訃報ニ接ス。謹テ哀悼ノ意ヲ表ス。

吉本清太郎